

ハマの地下を電車が走る

地下鉄乗車のご案内



横浜市交通局

横浜の新しい足

横浜市では、毎年10万人もの人が新しい市民となります。そして、大きく広がる都市化の中で、誰でも住みたくなる都市をつくるため6つの大きな事業が進められています。

その1つが、急速に発展している郊外と横浜の中心を直結させ、ますます激しくなっている道路混雑から市民の足を守る「横浜市高速鉄道建設事業」です。

まず1号線が走ります

地下鉄の全体計画は4路線、全長64.5キロメートルで、各地で国鉄、私鉄の駅と連絡し、有機的な交通網の形成をめざしています。最初に開通する区間は、1号線のうち「上大岡～伊勢佐木長者町間」5.3キロメートルで、昭和47年12月16日から営業を開始します。この区間は、横浜の中心部と開発の進んでいる南部地区とを直結しますので、通勤、通学などの利便が増大するばかりでなく、ひっ迫した路面交通を緩和するうえにも、大きな力を発揮します。

もとは海、軟弱地盤の難工事

横浜市の中心部はもとは海で、そこへ長い年月をかけて大岡川が運んできた粘土質の土砂の上に埋め立てをして造りあげられた土地です。ですから横浜に地下鉄を走らせるのは不可能といわれていました。

しかし、横浜市では多くの市民を安全に速く運ぶ交通機関をつくるため、この軟弱地盤に戦いを挑み、多くの最新工法を採用して、困難な地下鉄工事をやりとげました。

ユニークで明るい車両

ミナト横浜にふさわしい地下鉄とするため、ユニークで明るい車両をデザインしました。また、十分な安全と快適な乗りごちを求めた不燃性の高性能車両を開発しました。

ハンサムなゼブラ

乗車位置がひとめで

正面の顔は長い大きな窓が2つ、左右非対称に並び鼻すじの通った運転しやすいデザイン。車体はすべてステンレス製で、ドアの部分を屋根まで地下鉄のシンボル・カラー「ビビッド・ブルー」で塗装しました。このしま馬スタイルはひと目で乗車位置が分かります。車内は天井、壁面が明るいクリーム色、座席シートはオレンジ系のレッドと暖かい感じにまとめました。

安全対策と設備

地下鉄の安全とお客さまのサービスのために多くの安全対策と設備をとりいれました。

- ①不燃対策：発熱部分にはすべて特別の防護をし、全金属製車両を採用しました。
- ②騒音対策：乗りごちを良くし、騒音を少なくするため、全車両に空気バネを採用しました。
- ③列車制御：安全運転を確保するため、列車制御方式は車内信号によるATC方式（自動列車制御）を採用しました。
- ④換気装置：車内に風をむらなく送り夏や梅雨期の蒸し暑さを防ぐため、天井に「ラインデリア」を採用しました。

